



雑 報

固有運動の大きい星二つ発見さる

A. J. 誌第879號によれば、ヤーキース天文臺の F. E. ロス氏は下記二星が非

常に大きい固有運動を持つてゐることを発見した。

星	赤 經	赤 緯	光 級	固有運動 (毎年)	位置角
甲	3h32m12s	-11°	50.75	14	3."30 150°
乙	8 5 6	+9	14.8	13	5.40 167

ちなみに、固有運動の大きなものの一覽表としては、かつて「天界」第7號第114頁に小表を載せたことがあるが、それは可なり以前のことであり、又、今こゝに

二つの新発見が加はつたのであるから、改めて此所に又新しく掲げると、下の通りである。

順番	星 の 名	光 級	赤 經	赤 緯	固有運動	位置角
1	バーナード星	9.7	17h 52m	+4°	10."25	356°
2	コルドバ目録V243	9.2	5 7	-44	8.76	131
3	ケルムブリヂ目録1330	6.5	11 47	+38	7.05	145
4	ラカイユ目録9352	7.4	22 59	-36	6.90	79
5	コルドバ總目録32416	8.3	23 59	-37	6.11	113
6	第一ロス星	13.	8 6	+ 9	5.40	167
7	ばくてう座61番星	5.6	21 2	+38	5.27	52
8	ナルフ目録359	13.	10 51	+ 7	4.84	232
9	ラランド目録21185	7.6	10 57	+36	4.78	187
10	インドじん座ε	4.7	21 55	-57	4.71	123
11	ラランド目録21258	8.9	11 0	+44	4.52	282
12	エリダン座第二オミ	4.5	4 10	- 7	4.08	213
13	ナルフ目録489	13.			3. 9	
14	インネス星	10.5	14 22	-62	3.90	233
15	エルツエン目録 {14318 14320	9.9	15 4	-15	3.63	196
16		9.4				
17	カシオペア座μ	5.3	1 1	+54	3.76	115
18	センタウル座α	0.3	14 32	-60	3.68	281
19	ラカイユ目録8760	6.7	21 11	-39	3.53	251
18	第二ロス星	14.	3 33	-11	3.30	150
20	エリダ座ε	4.3	3 15	-43	3.16	76

最微光の恒星

ナルフ教授(獨逸ハイデルベルヒ天文臺)が1906年以來時々發表してゐる大運動星目錄中の第359番星は全天に於て第9番目の急速固有運動星であるが、位置は(1875年の分點)

赤經 $10^{\text{h}}5^{\text{m}}20^{\text{s}}$ 赤緯 $+7^{\circ}44.7'$

で、しゝ座56番星の北西北約1度の點にある。米國キルソン山のザンマーネン氏が近頃發表した所によるを、此の星の視差は $0.7404''$ であつて、即ち距離が8.05光年となり、全天に於いて第4番目の最近星である。(天界第71號第67頁參照)又、此の星は

寫眞光級=13.5 寫眞光級=15.5

であつて、絶對寫眞光級としては18.5となり、之れは全恒星中の最微光の星となる。我が太陽の絶對寫眞光級は+5.8であるから、此のナルフ359番星は太陽の120000分の一の光となる。尚ほ、此の星のスペクトルはMbeで、水素線H β とH γ が輝き、視線速度は-90キロである。

バーナードの遺されたる觀測

去る1923年に死んだバーナード教授がヤーキース天文台の「40吋」望遠鏡で1919年から1922年までの間にやつた天王星と其の衛星、及び海王星と其の衛星の觀測は、最近、教授の姪カルゲート女史によつて整理せられ、A.J. 誌第879號に發表された。——此の報告中に注意すべきことは、バーナードが1920年の夏の頃、天王星の形を「明らかに楕圓形」と認めたことであつて、長軸の位置角を以て下の如く發表してゐる。

日 附	天王星長軸位置角	觀測回数
1920年7月27日	178.02	4
8 14	181.7	4
8 17	192.8	4
9 16	203.4	4

デトロイト天文臺長新任

さきにロンドンで急死したハセイ教授(天界第73號第169頁)の後任として、1911年以來此の天文臺の首席臺員であつたR. H. Curtiss(カーテス)氏が就任した。

リゲ師 逝く

米國オマハのクレイトン大學教授 W. F. Rigge 師は去る3月31日死去した。師は1896年以來同職にあつた人で、特に日蝕月蝕掩蔽等の計算研究をし、最近にはGraphic Construction of Eclipses and Occultations及びHarmonic Curvesを著して有名であつた。

シヤリエー教授のための記念出版

現今のステア國天文學界の長老 C. V. L. Charlier 教授が去る1927年4月1日な以つて、滿65歳になつたのを祝し、同國ルンド天文臺より出す出版物 Meddelandenの第5巻第2輯に祝賀記念號(Festschrift)とし、後輩諸學者の寄せた論文15編を集めた。尚ほ、同教授は此の日を以つて其の教授職と天文臺長職を退いた。(天界第46號第406頁、同第54號より第65號までの論文を見よ)

ヘール博士に賞牌

去る5月18日米國フィラデルフィア市フランクリン學院に於いて、キルソン山天文臺名譽臺長 G. E. Hale 氏に賞牌が授けられ、其の時ヘール氏の論文 The sun as a Research Laboratory をシヤブレイ教授が代讀した。

ブリュクナー教授の死

氣象學者及び地質學者として有名な澳國オーストリアの E. Brückner 教授は64歳を以つて去る5月21日に死んだ。

本會の總會の歴史

我が同好會の創立以來の會員水野氏が調査して下さつた所によるを、本會は下記の如く、前後10回の總會を開いたわけとなる。

回数	年月日	總會の種類	「天界」所載	開催地
1	大正 9年 9月25日	創立總會	第1號	京都
2	10年 4月24日	臨時總會(天文展覽會の際)	第7號	大阪
3	11月12日	定期總會	第13號	京都
4	12年 4月22日	臨時總會	第30號	京都
5	13年 4月20日	定期總會	第41號	京都
6	14年 4月18日	定期總會	第52號	京都
7	10月25日	臨時總會(本會創立滿5週年記念)	第59號	大阪
8	15年 4月11日	定期總會	第63號	岡山
9	10月17日	臨時總會(日本學術協會總會の際)	第68號	京都
10	昭和 2年 5月 8日	定期總會	第76號	神戸

望遠鏡の賣り物種々

英國ロンドン市の W. Watson(ワトソン)會社からの報知によるを、現今下記の種々の望遠鏡が賣り物として出てゐる由。

(1)屈折式のもの

甲. [8吋半]赤道儀.	クク製,	自動装置付き	價650ポンド
乙. [7吋]赤道儀.	クク製,	自動装置付き	價500ポンド

(2)反射式のもの

丙. [8吋]赤道儀,	ブラウニング製,	自動装置付き	價110ポンド
丁. [12吋]経緯式,	カルヴァー製		價 50ポンド
戊. [11吋]赤道儀,	カルヴァー製,	自動装置無し	價 85ポンド

此等のものは何れも其の價格相應の能率を持つてゐるものであつて、殊に甲や乙は各々獨立した天文臺用の主要器械として用ゐられる。

我が同好會々員や各地の支部が此等の器械を手に入れて、研究のため、又、民衆教化や天文趣味普及のために利用せられたならば、效果は多いであらう。

會 員 消 息

新城教授. 八月十四日午前八時五十三分京都發、北京大學教授理學士文元謨氏と共に朝鮮に出發された。

竹田講師. 八月上旬より、學術視察旁々奥州地方を旅行中であつた同氏は八月二十四日歸洛された。

渡邊敏夫氏. 鮮滿地方重力觀測隊に參加の爲め八月十六日京都發同地向はれた。

軍鑑見物. 山本教授、荒木助教授は八月末京部府舞鶴軍港に聯合艦隊入港を機とし、軍鑑見物旁々同地方に清遊を試みる筈。